Oracleホワイト・ペーパー
2011年9月

Oracle WebCenter Portal：エンタープライズ・アプリケーションの直感的なユーザー・エクスペリエンス

ORACLE

免責事項

以下の事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。マテリアルやコード、機能の提供をコミットメント（確約）するものではなく、購買を決定する際の判断材料になさらないで下さい。オラクルの製品に関して記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定されます。

概要 2

はじめに 3

直感的なエクスペリエンスをユーザーに提供する 4

エンタープライズ・アプリケーションの直感的なユーザー・エクスペリエンス 4

ソーシャル・コンピューティング・サービスを使用したアプリケーション
およびポータルの拡張 5

共通のユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャで容易に集約できる
複合アプリケーション 6

共通のユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャ 6

より機動的で応答の早いビジネスの構築 8

ユーザー自身によるカスタマイズ 8

ユーザー主導のカスタマイズとパーソナライズ 9

ポータルのライフ・サイクル全体で保持されるユーザー・カスタマイズ 9

パーソナライズされた"マイ・ページ"ビュー 9

結論 11

概要

Web 2.0とソーシャル・テクノロジーにより、お客様、社員、パートナー、およびサプライヤの通信手段や情報入手の手段は大きな変化を遂げています。将来を見越して活動する企業は今、次の段階を目指し、ソーシャル・アクティビティとビジネス・アプリケーションを統合して、組織の認知度をかつてない高さに引き上げるのに役立つテクノロジーやインフラストラクチャを求めています。これらを実現するために、企業は必要なすべての機能を1箇所に集めた従来型のポータルという概念を離れ、オープン、モジュール式、コンポーネント・ベースの特長を持つ複合アプリケーションという概念に移行する必要があります。そして最終的に目指すのは、Webサイト、複合アプリケーション、コンテンツ管理、およびソーシャル・コミュニティの概念が結合された、内容の充実した参加型のエンタープライズ・ポータルおよびアプリケーションを構築し、これらを、シームレスに統合されたオープンで先進的なユーザー・エクスペリエンスを通して利用できるようにすることです。

Oracle WebCenter Portalは、ポータルおよび複合アプリケーションのソリューションで、直感的なエクスペリエンスをユーザーに提供し、エンタープライズ・アプリケーションとシームレスに統合できます。このオープンで完成された統合ユーザー・エクスペリエンス・ソリューションにより、内部ポータル、外部ポータル、Webサイト、複合アプリケーション、マッシュアップを、ソーシャル・サービスおよびコラボレーション・サービス、さらにエンタープライズ・コンテンツの管理機能と統合して、開発および配置できます。Oracle WebCenter Portalは、人々、情報、アプリケーション間の繋がりを最適化するソーシャル・サービスおよびコラボレーション・サービスの役割を果たし、ビジネス·アクティビティを円滑にするため、ユーザーは具体的な目的に適ったコンテンツを探して、移動したり、アクセスしたりできます。また、アプリケーション、ポータル、およびサイトを動的にパーソナライズする機能を利用すれば、ユーザー自身によるカスタマイズが可能です。Oracle WebCenter Portalは、トップレベルのポータル製品や関連テクノロジーが豊富に揃ったポートフォリオを利用した、もっとも優れたユーザー・エクスペリエンス機能を採用しています。また、Oracle Fusion Middleware、Oracle Fusion Applications、および既存のアプリケーションに次世代のユーザー・エクスペリエンスを提供する基盤となります。

はじめに

今日の動的な世界経済のもとで、企業は非常に激しい競争の重圧にさらされています。"様子見"のアプローチではもはや生き残れません。むしろ、競合他社に先んじるために、革新を進め、対応速度を上げる能力が求められています。現在の経済状況で成功を収めるには、企業は3つの大きな課題に取り組み、競争力を保つ必要があります。まず、必要なすべての情報ソースとアプリケーションにアクセスしやすく、通信しやすい状況を作り、ユーザーが生産性を維持できるようにする必要があります。次に、多様なWeb 2.0サービスにより、ポータルとエンタープライズ・アプリケーションの機能を強化して、ビジネス·プロセス全体で総合的なビューとして表示されるようにします。 最後に、動的な市場の要求に迅速に対応するために、アップグレード、カスタマイズ、および新しいアプリケーションをIT部門が短期間で提供できるようにし、さらにユーザーが自分でアプリケーションのカスタマイズやパーソナライズを実行できるようにします。

従来のエンタープライズ・ポータル・テクノロジーはこうした課題の一部の側面には対応していますが、企業が今日の動的な経済状況で競争力を保つのに必要なスピード、柔軟性、ソーシャル・サービスの統合、ユーザー主導で行うアプリケーションのカスタマイズといった面では不足があります。企業が求めるものは、1つに結合されたエンタープライズ・ポータル・ソリューションです。そのソリューションでは、どのようなタイプのポータル、Webサイト、または複合アプリケーションの構築にも対応できる柔軟性があり、エンタープライズ対応のWeb 2.0サービスが統合され、ビジネス・ユーザーが独自のソーシャル・ネットワークやアプリケーションを作成し、IT部門のサポートがなくても既存のアプリケーションをカスタマイズおよびパーソナライズできる機能が用意されている必要があります。

Oracle WebCenter Portalは、エンタープライズ・アプリケーションにシームレスに統合される直感的なユーザー・エクスペリエンスを企業に提供することで、そのような課題に効果的に対処します。

直感的なエクスペリエンスをユーザーに提供する

機動的かつインテリジェントなビジネスを遂行するには、さまざまなデータとシステムの間にある隔たりを埋めることが重要です。しかし、従来のテクノロジーでは、システム間の橋渡しが十分に行われているとは言えません。コンシューマが直接利用するWebサイトに、ブログ、wiki、タグ、ソーシャル・ネットワーキングなどのWeb 2.0テクノロジーが影響を与えていることから、企業はこのようなテクノロジーがビジネスに重要な価値をもたらす可能性があることを認識するようになっています。企業が必要としているのは、"孤立"した情報やサイロ化した情報の配布を増やすことではなく、既存のアプリケーションやシステムと直接統合でき、さらにはセキュリティや可用性の要件を満たすことのできる、エンタープライズ・クラスのWeb 2.0テクノロジーです。企業がコネクションを増やし、より機動性のあるインテリジェントなビジネスを実現するには、標準ベースのソーシャル・サービスがあらかじめ統合されているエンタープライズ・ポータル・ソリューションが必要です。そのようなソーシャル・サービスは、ユーザーが簡単にアクセス、統合、および利用できる必要があります。タグ、リンク、wiki、アクティビティ、ブログ、ソーシャル・ネットワーキングなどのソーシャル・サービスを、ユーザーが自分のポータルやアプリケーションで使用したり統合したりできれば、コネクションを増やしたり、生産性を最適化したり、アプリケーションの価値を大幅に増大させたりする効果が生まれます。

エンタープライズ・アプリケーションの直感的なユーザー・エクスペリエンス

Oracle WebCenter Portalは、ポータルおよび複合アプリケーションのソリューションで、企業のユーザーに直感的なエクスペリエンスを提供し、エンタープライズ・アプリケーションとシームレスに統合できます。Oracle WebCenter Portalにより、内部ポータル、外部ポータル、Webサイト、複合アプリケーション、マッシュアップを、ソーシャル・サービスおよびコラボレーション・サービス、さらにエンタープライズ・コンテンツの管理機能と統合して開発および配置できます。

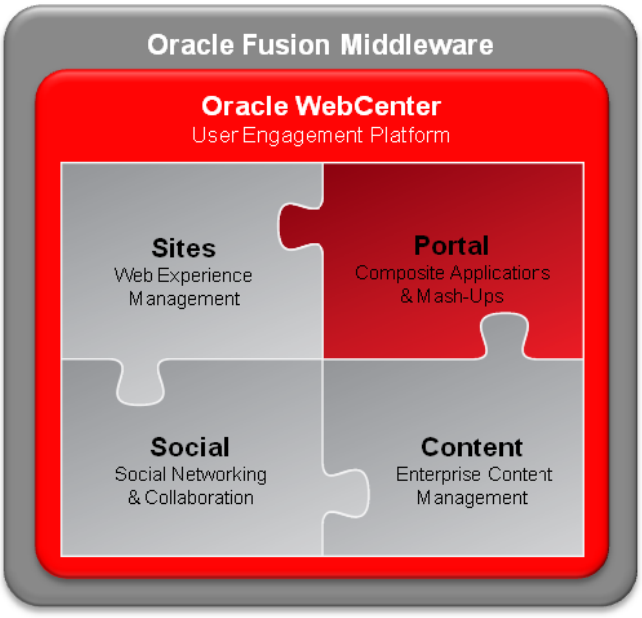

図1：Oracle WebCenter Portal － エンタープライズ・アプリケーションの直感的なユーザー・エクスペリエンス

Oracle WebCenter Portalが提供するポータル固有の総合的なコンポーネント・セットは、企業がエンタープライズ規模のトランザクション・アプリケーションや複合アプリケーションを構築するのに役立ちます。Oracle WebCenter Portalにより、パフォーマンスに優れたアプリケーションやWebサイトを迅速に作成できます。オープンのJava EE標準に完全に準拠したOracle WebCenter Portalを使用すると、最先端のユーザー・エクスペリエンスを設計および開発する必要がある企業は最大限の柔軟性を獲得することができます。これは、特にインターネットまたはエクストラネットのユーザーの要求に特別に対応する必要がある企業に適しています。

統一されたインテリジェントなワークスペースを構成することで、短期間のうちに成功を収める方法を探している企業には、**Oracle WebCenter Portal**のSpacesが役立ちます。SpacesはOracle WebCenter Portalに含まれる、すぐに利用できるアプリケーションで、動的なビジネス・コミュニティを豊富なソーシャル・サービスと組み合わせることができるため、チームはIT部門のサポートがなくても、情報、アプリケーション、プロジェクト、および人材を迅速かつ効率的に管理できます。ソーシャル・コンピューティング、コミュニティ、個人の生産性、特別チームでのやり取りに関連して、開発作業を伴うことなく最新のテクノロジーを結集します。Spacesを使用すれば、ユーザーがプロジェクト・チームやワーク・グループ（複数の場所に分散するチームや社外のメンバーを含む）とより効果的に連携できます。また、重複作業や矛盾したコンテンツをなくし（または減らし）、チーム・コンテンツの共有やコラボレーションを可能にして、組織の貴重なリソースをビジネス問題の解決や新しいアイデアの発掘、市場投入時間の短縮に集中投入できます。

Spacesは、ユーザーのチーム作業を可能にし、関連する情報を集約する動的基盤を提供することにより、企業による次のようなさまざまな課題の解決を支援します。

- 地理的に離れたチーム間のコミュニケーションの効率が悪い
- エラーが発生しやすい手動のビジネス・プロセスにより、プロジェクトの進行や完了が遅れる
- 関連情報が個人のデスクトップに保存されており、他のユーザーがアクセスできない状態にある
- 共同コンテンツ作成の際に電子メールが多用されるため、バージョン管理に問題が生じている
- ビジネス・インテリジェンスおよび分析を限られた時間内に配布する
- ビジネス・プロセスの状況に応じてエンタープライズ・アプリケーションにアクセスする

一方、多くの企業では、配置済みのWebアプリケーションが管理されておらず、統一もされていません。それらのアプリケーションの統合が進んでいないと、ポータルの生産性や価値に悪影響を与えることになります。この問題に対処するため、Oracle WebCenter Portalは総合的なWeb統合戦略を提示し、多様なWebアプリケーションを1つのポータルに統合します。

ソーシャル・コンピューティング・サービスを使用したアプリケーションおよびポータルの拡張

Oracle WebCenter Portalには、標準ベースのコンポーネントの総合セットというサービスが含まれており、業界でもっとも完成された、オープンなソーシャル機能のセットによって、既存のポータルとWebサイトを強化できます。wiki、ブログ、ディスカッション、オンライン・ステータスの通知とオンライン通信、コンテンツのコラボレーション、およびソーシャル・ネットワークなどのサービスがあります。サービスはオラクルのすべてのポータル製品で動作するため、企業は既存のエンタープライズ・ポータルとWebサイトを強化でき、既存の情報システム上で動作するソーシャル・サービスによってユーザーを支援できます。

これらのサービスを統合すれば、ユーザー間で一緒に使用して（たとえば、インスタント・メッセージングとプレゼンスへのリンクをディスカッション・フォーラムに追加して、フォーラムのトピックから製品エキスパートと直接会話ができるようにする）、効果的に管理し、ユーザーと情報の関係をモデル化して、新たなエキスパートを見いだしたり、コネクションを増やしたり、企業のパフォーマンスを向上させる新たな方法を発見したりできます。

Oracle WebCenter Portalの中心概念は、グループ参加およびソーシャル・コンピューティングであるため、ユーザーおよびサービスを、企業のデータおよびシステムと有効な方法で結合できます。次に例を示します。

- 営業担当者は、顧客関係管理レコードにリンクされたレポートや企画ドキュメントの作成に貢献できる。
- マネージャーは、エンタープライズ・システムのデータとMicrosoft Officeのドキュメントをまとめて、結果を顧客や同僚とセキュアに共有できる。
- ユーザーは、ドキュメントやプロジェクトをグループ・スペースで管理して、プロジェクト・ドキュメントをwikiで作成および編集し、関連するお知らせをグループ・メンバーに送信できる。

共通のユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャで容易に集約できる複合アプリケーション

1990年代にWebベースのコンピューティングが飛躍的に広まるにつれて、多くの組織が多額の資金を投入して、さまざまなタイプの顧客向けにWebサイトとポータルを構築しました。初期段階では、多くの企業がテクノロジーの新しさとその変化の速さを考慮して、戦術的なビジネス・ニーズに適合し、特定の利用者を想定したポータルを開発しました。その結果として、現在、統一されていないWebアーキテクチャと格闘する羽目に陥っている企業は少なくありません。そのようなWebアーキテクチャを維持するにはコストがかかり、効率も良くありません。この複雑さと非統一性は、新たに生じるビジネスの要求をITの能力によって効率的に満たす際の妨げとなっています。

ユーザー・エクスペリエンスも犠牲になっています。ポータルやWebにはユーザーが活用できるセルフサービス・オプションが備えられていますが、多くのユーザーは、業務遂行のために数多くのポータルやサイトを利用しなければなりません。効率を上げるためには、エンドユーザーの視点からポータルを設計して、ユーザーが、可能な限り多くのタスクを最小の数のポータルで遂行できるようにする必要があります。これには、ポータル構築の方法を再検討し、ビジネス・ユニットにとって機能的かどうかという視点から、ユーザーに焦点を合わせたプロセス指向の視点に移行する必要があります。

共通のユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャ

Oracle WebCenter Portalは、総合的なユーザー・エクスペリエンス（UI）アーキテクチャの基盤となり、拡張性の高いカスタム複合ポータル・ソリューションを提供します。おもな機能には、WebおよびエンタープライズUI統合ツールのフルセット、柔軟性の高い配置オプション、集約されたアーキテクチャ、および複合トランザクション・アプリケーションと多様なインターネット・アプリケーションのサポートがあります。Oracle WebCenter PortalをOracleの共通ユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャの核とするために、効率化された単一のポータル環境で、コンテンツからサービス指向アーキテクチャ（SOA）、ビジネス・インテリジェンス（BI）に及ぶさまざまなエンタープライズ・リソースを組み合わせることができます。このアーキテクチャは、ITの機動性を向上させながら、多様なビジネス・ニーズやユーザー・ニーズを統合された方法で満たすことができる柔軟性を持ち合わせています。

複合アプリケーションを介したエンタープライズ情報の統一ビュー

エンタープライズ情報の統一ビューの欠如、一貫性のないユーザー・インタフェース、統一性に欠けるセキュリティ、再利用やコード共有の不足といった問題を抱える企業は珍しくなく、共通ユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャの統合が必要なことを示しています。エンタープライズ情報を一貫性のある統一ビューで表示できないと、内部ユーザーおよび外部ユーザーのユーザビリティに悪影響が及び、そのようなユーザーは必要なサービスや情報が多数のWebサイトやポータルに分散している状態に不満を感じることになります。共通のプラットフォームやアーキテクチャ・コンポーネントのセットがない場合に新しいサービスを提供するには、通常は新しいアプリケーションかポータルを開発する必要が生じます。Oracle WebCenter Portalにより、特定のユーザーのロールや選択に合わせて、エンタープライズ情報を統一ビューでシームレスに表示させることができます。

Oracle WebCenter Portalが提供する共通ユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャが、実質的なアクセス用のシステムとなります。このアーキテクチャは、多様なサービス、アプリケーション、およびデータソースに対応するベスト・プラクティス、設計パターン、および配信メカニズムを提供します。アクセスに使用されるプライマリ・システムとしての役割を果たすために、Oracle WebCenter Portalは、統合検索、サービス指向アーチファクト、コンテンツ管理、およびコラボレーション・ツールを介した、非構造化コンテンツや他のユーザーへのアクセスを提供します。

ポータルのユーザーは、必要なシステムとデータソースを統合できるプラットフォーム・コンポーネントの共通セットがポータルで採用されている場合のみ、情報の統一ビューを利用できます。Oracle WebCenter PortalはOracle Fusion Middlewareの共通テクノロジー基盤を採用して、密接に統合されたユーザー・エクスペリエンスを提供し、複数のシステムとサービス間で、機能的で統一されたビューをユーザーに提示します。また、同一の共通開発フレームワーク（WebCenter/Oracle ADF）をすべてのFusion Middlewareユーザー・インタフェースとFusion Applicationsで採用しているため、Oracle Applicationsのユーザーは Oracle WebCenter Portalの再利用可能な標準ベースのコンポーネントを使用して、既存のアプリケーションとFusion Applicationsを容易に拡張できます。

一貫性のある動的なユーザー・インタフェース

一貫性のあるユーザー・インタフェースはビジネスにとって不可欠であり、ユーザビリティ向上の主要な要素でもあります。ビジネス・オーナーはWebプロパティ全体でブランディングを標準化する方法を模索しています。複数のサイトとポータルが、異なる製品、プラットフォーム、アーキテクチャで動作している場合、これは容易ではなく、時間のかかる手動の作業となります。また、ユーザーはポータルからポータルに移動するたびに異なるインタフェースを操作することになり、混乱が生じます。

新サービスのプライマリ配信メカニズムとしてOracle WebCenter Portalを使用すると、新サービスの表示要素をポータルが提供するため、何度もUIコンポーネントを開発する必要はなく、IT部門はサービスをより早く配信できます。このため、IT部門の対応の早さが向上し、UIの開発作業を何度も実施するコストを回避できます。Oracle WebCenter Portalは、1つまたは複数のサイトのルック・アンド・フィールを1箇所で制御するフレームワークとなります。スキンやテンプレートのようなUI要素は、ポータルの最上位レベルで適用された後、下位のポータル、ページ、ポートレットに継承されます。ただし、下位のポータルやページを所有する部門やビジネス・オーナーに、UIのマスター・フレームワークを上書きする権限を付与して、個別のページやページ要素をマスター・ポータルとまったく異なるルック・アンド・フィールとすることも可能です。このような複数レベルの柔軟性を備えているため、Oracle WebCenter Portalは、部門またはビジネス・ユニットの個別の要求に応えつつ、中央で全体的な管理を実施できます。

このポータル・ソリューションでは、サイト全体で共通のUIを採用できますが、大幅にインタフェースをカスタマイズすることもできるため、別々のユーザー・グループでまったく異なるポータルを表示できます。それでも、提供されるサービスは共通のコンポーネントとコンテンツのセットに基づいています。

共通ユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャにより、点在する情報とデータが統一ビューで表示されるため、ユーザー・インタフェース・エクスペリエンスが全体的に向上します。さまざまなインタフェースを採用する複数のWebサイトの利用をユーザーに強いるのではなく、Oracle SOA、ビジネス・プロセス管理（BPM）、BI、WebCenter Content、およびWebCenter Socialによって、基盤となっているシステムのプロセス・データと非構造化データをあらかじめ統合し、その後、それらの機能を統一された単一のUIとしてポータルに表示します。データがプレゼンテーション・レイヤーに到達する前に統合が行われるため、2つのポートレットを並べて配置したり、さらに悪い場合は別のサイトに移動して関連情報やプロセスを探したりする、ユーザーによるその場限りの"統合"の必要性が減少します。

コードの再利用と共有の増加

異機種アーキテクチャ環境では、ポータルおよびアプリケーション・コンポーネントを新しいイニシアチブで再利用することはほぼ不可能です。IT部門が多くの時間を費やして既存のシステムで統合を実施したり、他のアプリケーションの機能のコードを開発したりしても、再利用はできません。共通ユーザー・エクスペリエンス・アーキテクチャのおもな利点とは、再利用を増やし、新しいサービスを作成する際の新規開発に要する時間を短縮できることです。

Oracle WebCenter Portalは、サービスを配信するための標準化されたフレームワークを提供します。そうしたサービスでは、このフレームワークが提供する共通コンポーネントを再利用できるため、新しいアプリケーションでコンポーネントを再開発する必要がありません。プレゼンテーション・レイヤーおよびセキュリティ・サービスはそうしたサービスの良い例で、作成される新しいサービスで何度も再利用できるコンポーネントをポータルが提供します。新しいアプリケーションでこのようなコンポーネントを開発する必要性が完全になくなれば、コストと時間を大幅に節約できます。

より機動的で応答の早いビジネスの構築

ビジネス・ユーザーはこれまで、アプリケーションやポータルのカスタマイズの多くの部分を自社のIT組織に依存していました。しかし、競争の激しい現在のビジネス環境で成功するためには、スピードが重要です。IT部門が要求に応えてアプリケーションの機能強化やカスタマイズを実施し終えるまでの長い期間、待機することはできません。また、多くのIT組織がリソースの制約という問題を抱えているため、業務上必要な簡単なカスタマイズに貴重なITリソースを当てることは、ビジネスとして賢明ではありません。組織に必要なのは、カスタマイズとパーソナライズ機能の適切なセットであり、それはビジネス・ユーザーにとって使いやすく、なおかつ必要な改善を実施できる強力なものでなければなりません。

ユーザー自身によるカスタマイズ

アプリケーションとポータルの適切なカスタマイズをユーザー自身が実行できるようにするには、統合された機能セットを企業が用意して、ユーザーが最後まで自分の手でカスタマイズできるようにする必要があります。また、簡単で直感的である必要があります。まず、アプリケーションのカスタマイズに使用される各種のエンタープライズ・リソースは、ユーザーのロールに基づいて整理されて表示される必要があります。

次に、強力でありながら使いやすい機能を用意して、ユーザーが数回のマウス・クリックで簡単にアプリケーションやポータルをカスタマイズできる必要があります。最後に、ユーザーが実施したパーソナライズやカスタマイズが、アプリケーションまたはポータルのライフ・サイクル全体で有効に利用されるようにします。

ユーザー主導のカスタマイズとパーソナライズ

ビジネス・ユーザーは、Oracle WebCenter PortalのComposerが持つオンザフライの視覚的なページ編集機能を使用して、どのページでもカスタマイズまたはパーソナライズできます。Oracle WebCenter PortalのBusiness Dictionaryにアクセスし、さまざまなリソース・コンポーネントを選択して、新しいコンテンツをページに追加します。Business Dictionaryでは、利用可能なコンポーネントやリソースがロールベースのビューに表示されます。それらのコンポーネントには、エンタープライズ・アプリケーション、管理対象コンテンツ、リッチ・メディア、ビジネス・プロセス、またはビジネス・インテリジェンス・システムなどの、さまざまなエンタープライズ・リソースからの情報が含まれます。ComposerとBusiness Dictionaryを合わせて利用することで、ユーザーは強力で使いやすいツール・セットにアクセスし、IT部門に依頼することなく、自分のOracle WebCenter Portalをパーソナライズして拡張できます。

ポータルのライフ・サイクル全体で保持されるユーザー・カスタマイズ

カスタマイズとは、アプリケーションまたはポータルのすべてのユーザーにとってのビューを変更するもので、通常は、配布済みのアプリケーションやポータルを特定の顧客または用途向けに"特殊な仕様にする"ことが必要になります。カスタマイズには、ロゴの挿入や、会社に合わせた色の変更といった簡単なものから、ページへの項目の追加、ページ・レイアウトの変更、与えられたプロセスの変更、配置済みのアプリケーションやポータルのビジネス要件に合わせた調整なども含まれます。Oracle WebCenter PortalのComposerは、Oracle Metadata Services（Oracle MDS）を通して、そのようなカスタマイズを効率よく保存するための柔軟なモデルを備えています。従来の方法では、カスタマイズ内容がアプリケーションの一部として保存されていたため、ベース・アプリケーションにパッチやアップグレードを適用した場合、カスタマイズ内容が失われていました。Oracle WebCenter PortalとOracle MDSでは、ベース・アプリケーションの定義、カスタマイズ内容、パーソナライズ内容はすべて、ベース・アプリケーションの上のOracle MDSリポジトリにレイヤーとして保存されます。ビジネス・ユーザーにとっての利点は、カスタマイズやパーソナライズの内容が、アプリケーションのライフ・サイクル全体で保持されることです。Oracle WebCenter PortalによってIT部門は、製品のライフ・サイクル全体にわたり、ビジネス・ユーザーによって追加されたカスタマイズ内容やパーソナライズ内容を失うことなく、アプリケーションの新バージョンを開発導入できます。その結果、IT部門の応答性が改善され、機動性が増し、インテリジェントなビジネスが実現します。

パーソナライズされた"マイ・ページ"ビュー

Oracle WebCenter PortalのComposerとBusiness Dictionaryによって行われるパーソナライズにより、ポータルまたはアプリケーション・ページのユーザー・ビューが変更されます。変更されるのはそのユーザーのビューのみです。それ以外のユーザーは影響を受けません。今日、インターネット上の多くのWebサイトやソーシャル・サービスでは、ユーザーが独自の"個人用"ページを作成できます。ユーザーは自分にとって重要なものを選択し、すばやく簡単に検索できるように情報を編成できます。Composerでは、ロールベース・ビューのOracle WebCenter Portalビジネス・ディレクトリからの情報を表示することによってパーソナライズを有効にするため、ユーザーには自身に関連するリソース・コンポーネントだけが表示されます。

たとえば、営業担当者は、現在の顧客リスト、現在のリードや販売機会のリスト、過去の顧客リスト、リニューアル候補の製品のリストを選択してページをパーソナライズできます。カスタマ・サポート担当者は、リソース・カタログのビューに、これらのコンポーネントのサブセットのみを表示できます。ここで重要なのは、他のユーザーのページのビューに影響を与えることなく、ユーザーが必要なときにいつでもページを調整し、コンポーネントのあらゆる組合せをページに追加できることです。

Composerは、ユーザーが個人スペースやグループ・スペースをカスタマイズおよびパーソナライズできるように、Spaces内で幅広く活用されています。Spacesアプリケーションは、エンドユーザーが特定のニーズや要件に合わせて作業環境を積極的に管理および変更し、より機動性の高い、インテリジェントなビジネスを実現できる、実用的な例を提供します。

結論

競争の激しい経済状況でリソースの制約に直面している今日の企業は、自社のアプリケーション、ポータル、およびWebサイトをより機動的でインテリジェントなものとし、ナレッジ・ワーカーの生産性を上げる手段を必要としています。企業は、関連情報やリソースに迅速にアクセスする手段を提供し、さまざまなソーシャル・サービスを使用して既存のアプリケーションとビジネス・プロセスを強化し、カスタマイズ作業についてはビジネス・ユーザーの手に委ねる必要があります。Oracle WebCenter Portalは、エンタープライズ・アプリケーションにシームレスに統合できる直感的なユーザー・エクスペリエンスを企業に提供することで、そのような課題に対処します。

Oracle WebCenter Portal：
エンタープライズ・アプリケーションの
直感的なユーザー・エクスペリエンス

August 2011

Oracle Corporation
World Headquarters
500 Oracle Parkway
Redwood Shores, CA 94065
U.S.A.

海外からのお問い合わせ窓口：
電話：+1.650.506.7000
ファクシミリ： +1.650.506.7200
www.oracle.com

Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd.によってライセンス提供された登録商標です。1010

Hardware and Software, Engineered to Work Together